

第1回大川市文化財保存活用地域計画策定協議会 議事要旨

日時：令和5年9月11（月）13：30～15：00

場所：大川市役所3階大会議室

出席者：委員：松岡、吉田、高橋、古賀、中村、中島、添島、藤岡（以下、委）、大庭（以下、大）

事務局：大川市 内藤（※途中退出）、井口、田中、東（以下、市）

福岡県 松本（以下、県）※オブザーバー

都市環境研究所 池田、角田（以下、都）

1. 委嘱状交付及び教育長挨拶

2. 委員自己紹介及び事務局等紹介

3. 会長及び副会長の選任について

・会長：松岡氏、副会長：吉田氏を選出

4. 報告・協議事項

（1）文化財保存活用地域計画について

●文化庁認定について

委）文化庁認定におけるメリットは何か。

大）文化庁の補助メニューを優先的に採択できる可能性が高くなる。また、文化財行政の計画的、対外的な説明がしやすくなる面もある。

委）ぜひ大川らしい地域計画をつくってほしい。

（2）大川市文化財保存活用地域計画の骨子と工程表（案）について

●将来像（案）について

委）将来像に筑後川とあるが、大川と久留米との違いはあるのか。

都）現案はあくまで仮案である。大川らしさとは何かを市民、子ども達へ分かりやすく伝わるように整理していきたい。筑後川に育まれた歴史文化を伝えていくためには行政の力だけでは難しいため、市民と協働し、つくりあげていく、醸成していきたいという思いを込めている。こちらにみなさまからご意見をいただき、肉付け、ブラッシュアップをしていけたらと思っている。

●醸成について

委）醸成とは何か？

都）今ある特徴を官民協働で育成していく、育んでいく意図で用いている。

委) 醸成には、新しいものも生み出していく意図も含めて捉えられると思う。

●木工産業について

委) 木工産業のおいたちが市民に浸透していない。学校教育でどう伝えているのか、十分にいかされていない。わかりやすく子どもたちに伝えていければと思う。

●重点計画について

委) 重点計画として藩境の町並みと筑後川流域を取り上げているが、別に新しいものを追加することも可能か。

委) 可能だと思う。

委) 区域を決めるのか。

市) 区域を決めて取り組んでいく。

委) その区域に対する計画になるのか。

市) 1編は全市を対象とし、2編は全市の内、絞ったエリアを対象とする。

●小保・榎津文化財保存活用区域について

委) 区域を広げることは可能か。

都) 現案は、街なみ環境整備事業の対象エリアを採用している。事業導入にあたって、住民の同意も得られた範囲なので一つの選択肢として適当と考えた。

委) 街なみ環境整備事業の対象エリアからはずれた建築物の滅失もあるため、エリアを広げる方向で検討できればと思う。

大) エリアは囲う必要はなく、エリアに入っている建造物であれば補助対象となる。

委) はずれている建築物も小保榎津の町並みなので、エリアに入っていないことがおかしい。

●アンケートについて

委) 区長・町内会長へのアンケートは実施前に、もう少し詳しく主旨を説明してほしかった。

市) 主旨は事前に説明を実施した。

委) 計画に関わる重要なアンケートであるという認識ができていなかった。

市) 限られた時間での説明であった。行政が知らない文化財を掘り起こせればとアンケートを実施した。

●未指定文化財の調査について

委) 調査にあたって、原資料についても追っていくのか。

都) 今回は把握調査であり、価値付けのための調査は別途となる。調査が必要なことも措置に入れる必要がある。措置は課題→方針→措置といった流れで記載しなければならない。協議会の中で検討したい。

- 都) 調査の概要は計画書に記載する。
- 委) 史料・文献リストは必要なのか。
- 大) 文化財リストの提出が必要となる。

●計画の対象範囲について

- 委) 計画の対象範囲は市内だけか？
- 都) 基本的に市内になると思う。隣町との連携を目指す方向性も計画に書いていくことは可能。
- 委) 臨機応変に対応ということか。
- 都) 計画に書くことは可能だが、具体的な取組は当該自治体やそこで活動する市民等との連携に頼ることになると思う。
- 委) 連携とは具体的に何か。
- 都) 観光ルート・サイクリングルートであれば、久留米市で実施行われている取組との連携等が想定される。連携にあたっては協議が必要になると思う。
- 委) 観光面では環有明海観光連合があり、協議相談は可能。
- 委) 大川・八女・筑後でものづくりのルート、川のルート等広域観光が考えられるのではないか。

(3) 大川市の歴史文化の特徴や将来像について意見交換

●特徴の記載について

- 委) 八院合戦古戦場跡についても入れた方がよい。
- 委) 八院の戦い、有馬藩の運港である若津港を入れて欲しい。
- 委) 若津港は当時の港の姿が分かるのか。
- 委) 史料はあると思う。
- 委) 筑後川河口という視点が大切と思う。
- 委) 久留米と違うところとして木工業がある。船大工から家具作りに繋がっている。長崎市の民俗資料館にある船が大川市日吉神社にある船が似ており、関係性があると思う。
- 委) 清力美術館と長崎の家具もほぼ同じ様式に見える。筑後川河口域が関係しているのではないか。
- 委) 島原の乱で逃げてきた人が、大川に住むようになったとの話もある。影響もあるのではないかと思う。
- 都) 協議会の話聞いていて、「筑後川河口」、「筑後川下流部」といったことを前面に出していくべきかと思った。
- 委) 「大川」という地名はどこからきているのか。
- 市) 筑後川を「大川」と呼んでいたという文献がある。
- 委) それは近代以降の話なのか。「河口流域」が重要になってくるのではないか。
- 委) 利根川・信濃川・筑後川が日本三大暴れ川といわれていた。
- 委) 「筑後川」にしぼった将来像としていくのか。

都) しぼりすぎず、大きな1つの柱に複数の柱につながるイメージがよいかと思っている。久留米市ではすべての文化財が筑後川につながるとしたが、そこの違いを出していきたいと思う。

都) 大川にある風浪宮も元々は干潟であったのか。

委) 干潟であった。

大) 弥生土器が出ている。人は暮らしていたことを示している。

委) 佐賀県に資料が残っている。

●造り酒屋について

委) 大川市に造り酒屋はあるのか。

委) 庄分酢も元々は造り酒屋であった。他3・4軒程あり、現状は若波酒造のみである。

委) 若津港が反映していたから酒屋も栄えていた。

●文化財について

委) 保存した後どう活かすかが大切。4・5年後、大川の駅が完成した時、藩境の町並み・若津・風浪宮の3箇所がトライアングルとして重要になると思う。また、教育にも活かしていくことが大切と思う。筑後川最下流域としての魅力を発信していくべきだと思う。うきはの旅館等活発な活用が参考になる。

委) 発信の手段が大切である。

●木育について

委) 10年前から食育ならぬ木育を実施している。木工業だけでなく、ひと・もの・ことを交えたものである。R5年度には大川市教育研究所において「ふるさと大川よかたいプロジェクト」として、文化財・人・もの・ことをマップ化しており、R5年度中に完成する予定。本協議会の意見も大川市教育研究所に共有し、プロジェクト内容についても本協議会に共有していきたい。

●小保榎津について

委) 小保榎津は町全体が文化財である。子どもたちを連れてきて教育に活かしていくべきだと思う。現在も旧吉原家住宅では子どもたちが体験に来る機会がある。現場を見せるということが大切だと思う。

●担い手について

委) アンケート結果によると行政に頼っている面があるように思うがどうか。

市) 結果は想定していた。何をすべきか市民がイメージできていないと思う。

委) 行政に期待しているという面もあると思う。

委) 船引き祭もする人がいない。少子高齢化が影響している。船の修理も誰がするか、だれが払うか困ってくる。担い手のバックアップすることを計画に盛り込んで欲しい。

委) 花宗川・筑後川での木工の歴史について、現状木育が実施されているそうだが、人口減少・少子高齢化により、管理者・伝えていく人がいなくなっていく。貴重な書物もどこにあるのか把握している人がいなくなっていく。木工という単一産業で成り立っている町は九州でもめずらしい。それらを残していくためのシステム作りが必要だと思う。

●学校教育について

委) 八女や久留米のイベントとして町の魅力を歩いて回るものがある。大川でも若津港や小保榎津を回るイベントがあるが、参加者は市外の人が多い。市内の人の関心が低いため、増やしていければと思う。

5. その他

次回は令和5年11月中旬頃、大川市役所での開催を予定。

以上。